日本呼吸療法医学会の活動

第36回日本呼吸療法医学会学術総会開催にあたって
―医療安全全国共同行動との連携を

2014年7月19日・20日に第36回日本呼吸療法医学会学術総会を秋田市で開催するにあたり、人工呼吸器を使用する医療の安全について医療安全全国共同行動の活動と連携し議論するセッションを企画中です。つきましては企画案について少し述べさせて頂きます。

日本呼吸療法医学会は、呼吸療法に携わる医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士等の多職種からなる学術団体です。今回の学術総会のテーマは、“学際的研究と多職種チーム医療の再考”とさせて頂きました。前半は学術研究をしっかりやりましょうという思いを、後半は、多職種で連携して使命を果たすことをもう一度考えましょう、という思いを込めました。本来は前半部分が学会の使命で、後半は共同行動等の団体の使命かもしれません。

その議論はさておき、今回の学術総会で取り上げる行動目標は、行動目標5「医療機器の安全な操作と管理」の（b）「人工呼吸器」です。その中でも、推奨する対策の「人工呼吸器関連肺炎（VAP）の予防」を取り上げます。大きな課題は VAP の定義が変わったことです。新しい定義は、人工呼吸器関連事象（Ventilator-Associated Events: VAEs） として人工呼吸器関連状態（Ventilator-Associated Condition: VAC）、感染関連性人工呼吸器関連合併症（Infection-Related Ventilator-Complication: IVAC）、人工呼吸器関連肺炎可能性例と人工呼吸器関連肺炎推定例（possible / probable VAP） の三層構造四定義で構成されています。VACとIVACはパブリックレポーティングとP4P の報告項目です。一方、VAPは施設内での改善指標の位置付けになりました。

VAC は人工呼吸開始後に発症する酸素化障害を人工呼吸器の設定PEEPとFIO2の変化のみで捉えることができます。われわれはVAEs、特にVACが日本の医療現場でICU機能や病棟での呼吸サポートチーム（RST）の活動の評価、あるいは安全の指標として正しく機能するかを可及的速やかに検討する必要があります。

いずれにしても行動目標に関連する学術団体が貴共同行動と連携することは、医療の安全にとって意義あることと考えています。来年、秋田でお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。なお、情報発信、交換の場として学術総会のフェイスブックを立ち上げました。VAEsに関する情報も掲載しました。ご意見、ご質問等ございましたら書き込み下さい。 http://www.facebook.com/jsrcm36

秋田でお待ちしております。

第36回日本呼吸療法医学会学術総会会長
多治見 公高